

横浜市感染症発生動向調査報告 6月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 定点把握対象疾患の多くが、例年より低めの報告数で推移しています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈6月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	8件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	7件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:8件の報告(O157が5件(うち無症状病原体保有者が1件)、O26が1件、O血清群不明が2件(2件とも無症状病原体保有者))がありました。
- 2 E型肝炎:感染経路等不明の60歳代の報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症:肺炎型2件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 5 ウイルス性肝炎:B型ウイルス性肝炎(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:7件の報告がありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:G群、A群の報告が各1件ずつありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が2件、その他が3件ありました。性別は男性6件、女性1件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間4件、異性間2件、異性間および同性間1件)でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症:30歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症:70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 11 梅毒:無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件の報告がありました。性別は男性8件、女性3件、推定感染経路はいずれも性的接触(異性間7件、同性間1件、異性間および同性間1件、詳細不明2件)でした。
- 12 播種性クリプトコックス症:40歳代の報告が1件ありました。
- 13 破傷風:70歳代の報告(ワクチン接種歴不明)が1件ありました。
- 14 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:70歳代の報告が1件、90歳代の報告が1件ありました。

◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

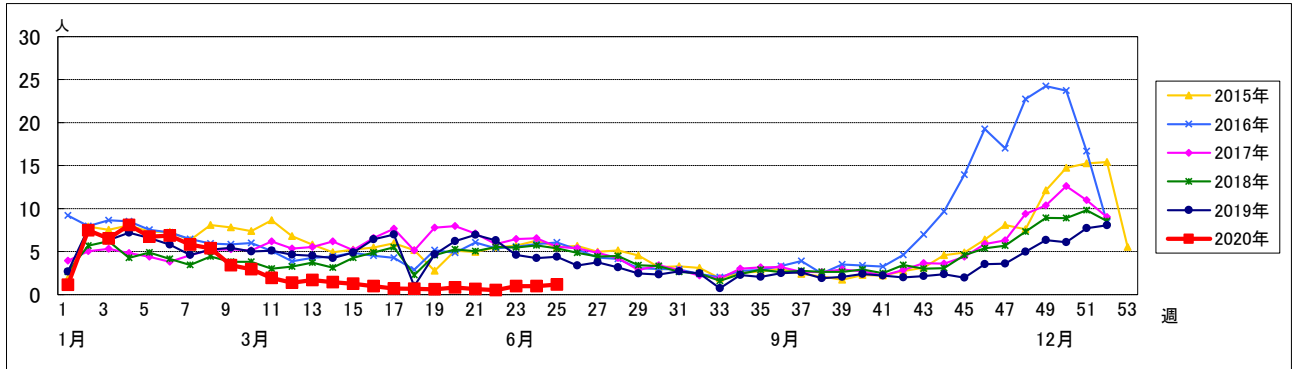
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

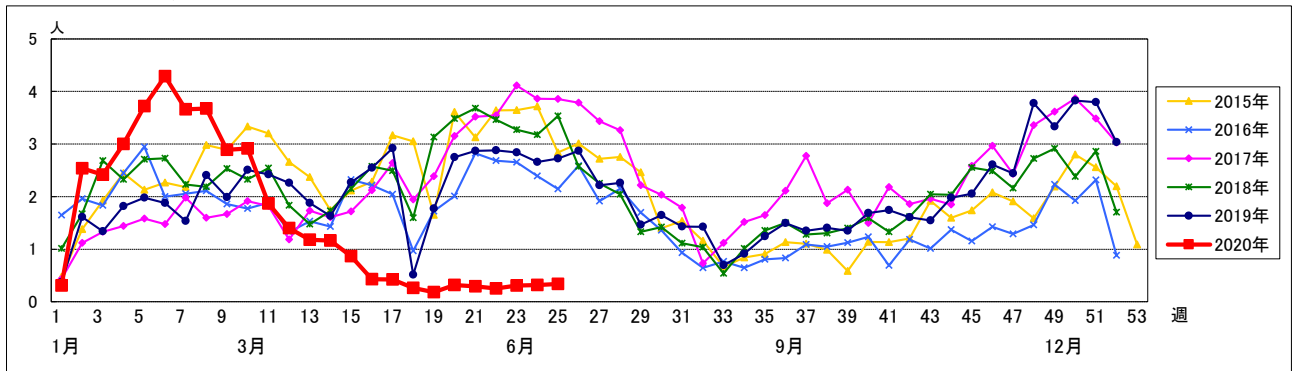
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第21週	5月18日～5月24日
第22週	5月25日～5月31日
第23週	6月1日～6月7日
第24週	6月8日～6月14日
第25週	6月15日～6月21日

1 感染性胃腸炎:第4週の8.09をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移していて、第25週は1.17となっています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第6週の4.29をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移していて、第25週は0.34となっています。



3 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性: 7件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 7件	淋菌感染症	男性: 7件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月25日から6月21日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点3件、基幹定点0件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは2件でした。

各種ウイルスの分離またはウイルス遺伝子は検出されていません。

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

6月期(2020年第22週～2020年第25週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からサルモネラ属菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、薬剤耐性緑膿菌1件、非結核性抗酸菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌6件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌10件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ1件の検査依頼がありました。小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌1件、結膜炎起因菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第22週～2020年第25週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Manhattan (1)	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (5), <i>Raoultella ornithinolytica</i> (1)	
	薬剤耐性緑膿菌	1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (1)	
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)	
	腸管出血性大腸菌	6	O157 : H7 VT1 VT2 (3), O157 VT2 (1), O26 : H11 VT1 (1), OUT : H- VT1 (1)	
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	10	<i>Klebsiella aerogenes</i> (4), <i>Enterobacter cloacae</i> complex (3), <i>Escherichia coli</i> (3)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 T23 (1), G群溶血性レンサ球菌 (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium</i> <i>vanB</i> (1)	
	分離同定	材料	項目	検体数
保健所	喀痰	レジオネラ	1	不検出 (1)
小児サーバイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	1	TB3264 (1)	
	結膜炎起因菌	1	<i>Staphylococcus hominis</i> (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】